

2026年5月28日

2026年3月期決算及び 中期経営計画の進捗について

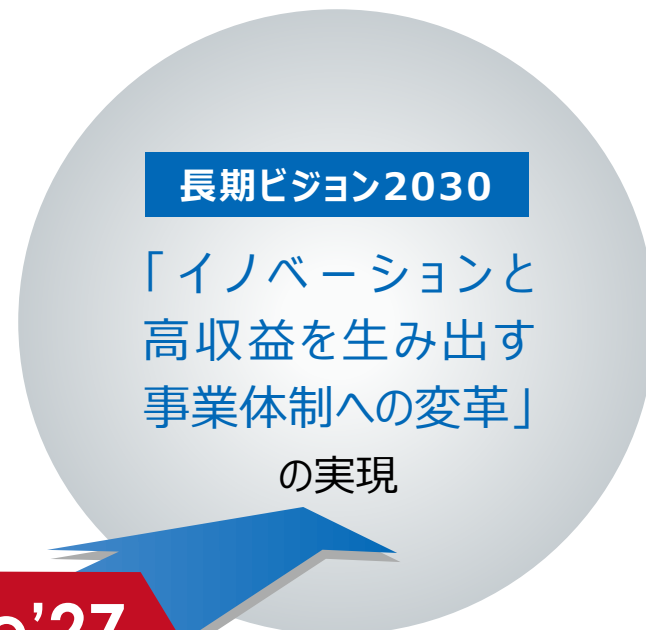
Accelerate'27



- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

基本方針	高収益事業の成長加速と経営資源の効率的な活用による企業価値の向上
重点施策	<ul style="list-style-type: none">① 成長市場に向けた注力事業の展開・加速と基盤事業の収益力強化② R&D活動の強化と新規事業の創出・収益化③ サステナブル社会の実現への貢献④ エンゲージメントの高い組織の構築
最終年度目標	<ul style="list-style-type: none">● 売上高：1,650億円● 営業利益：130億円

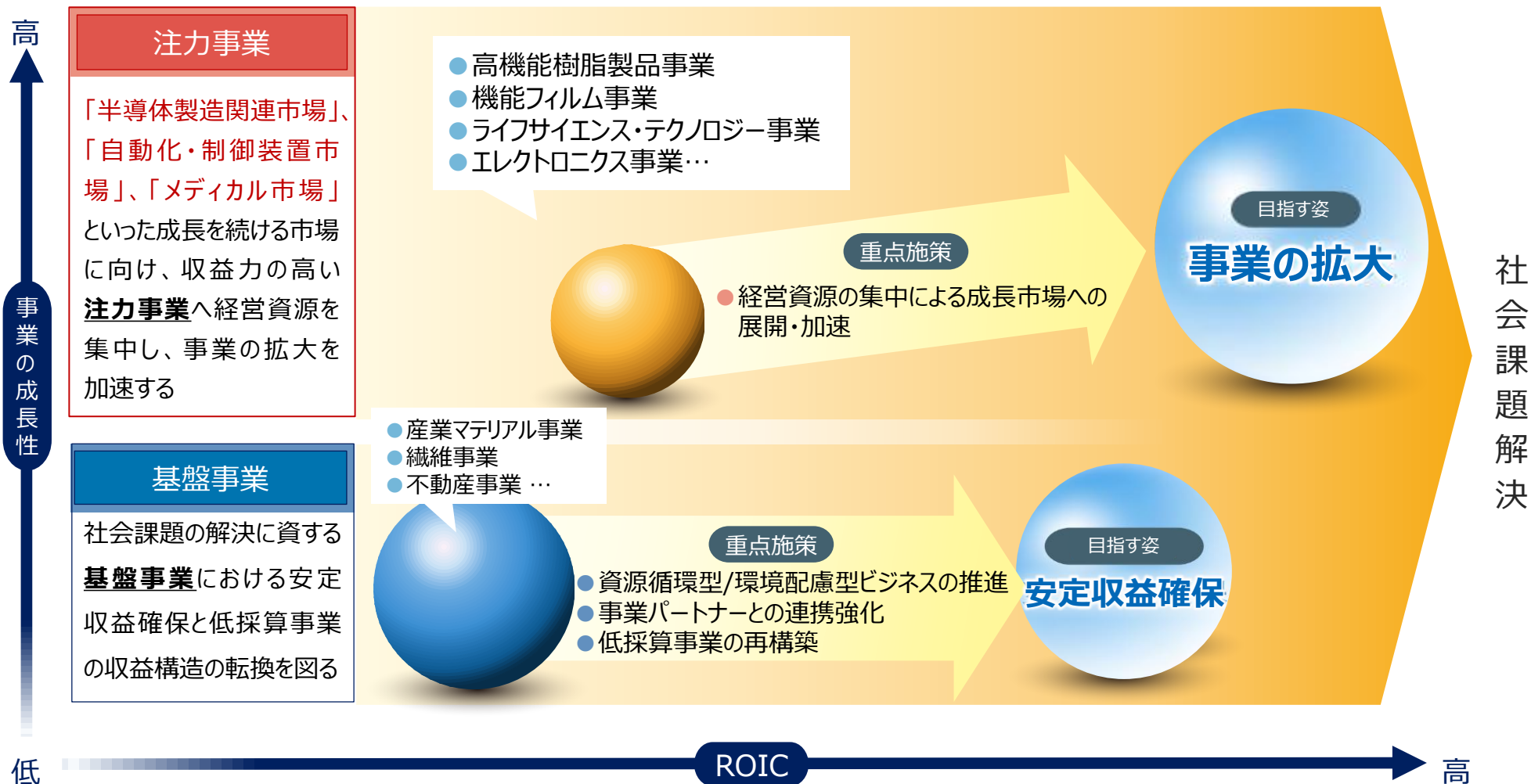


Accelerate'27
事業ポートフォリオ改革のさらなる加速

Progress'24

Creation'21

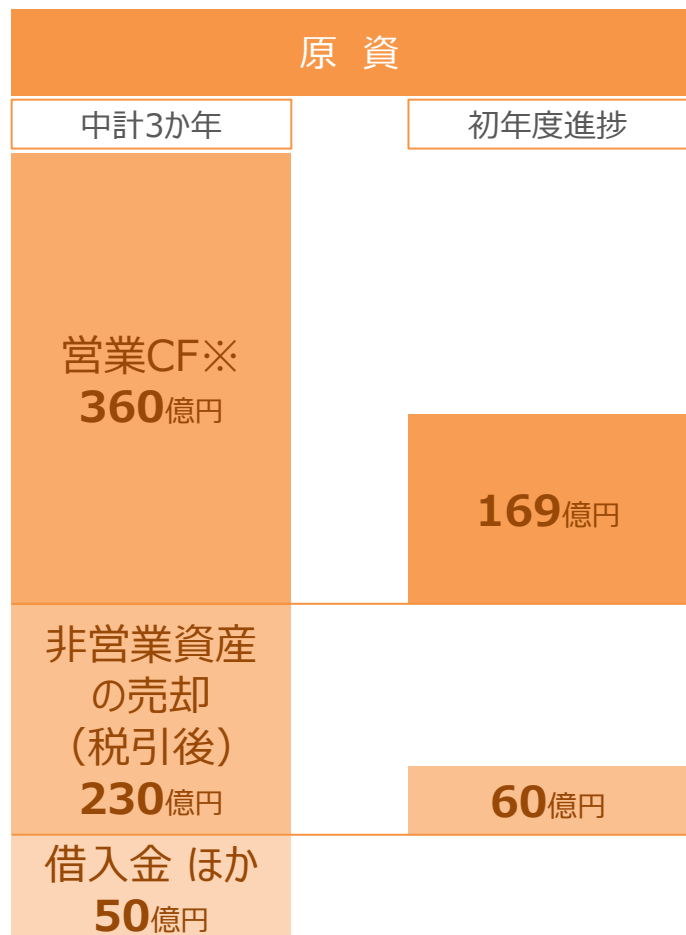
収益性の高い注力事業へ経営資源を集中し、事業ポートフォリオ改革を加速する



各セグメントと事業区分、注力領域との関係

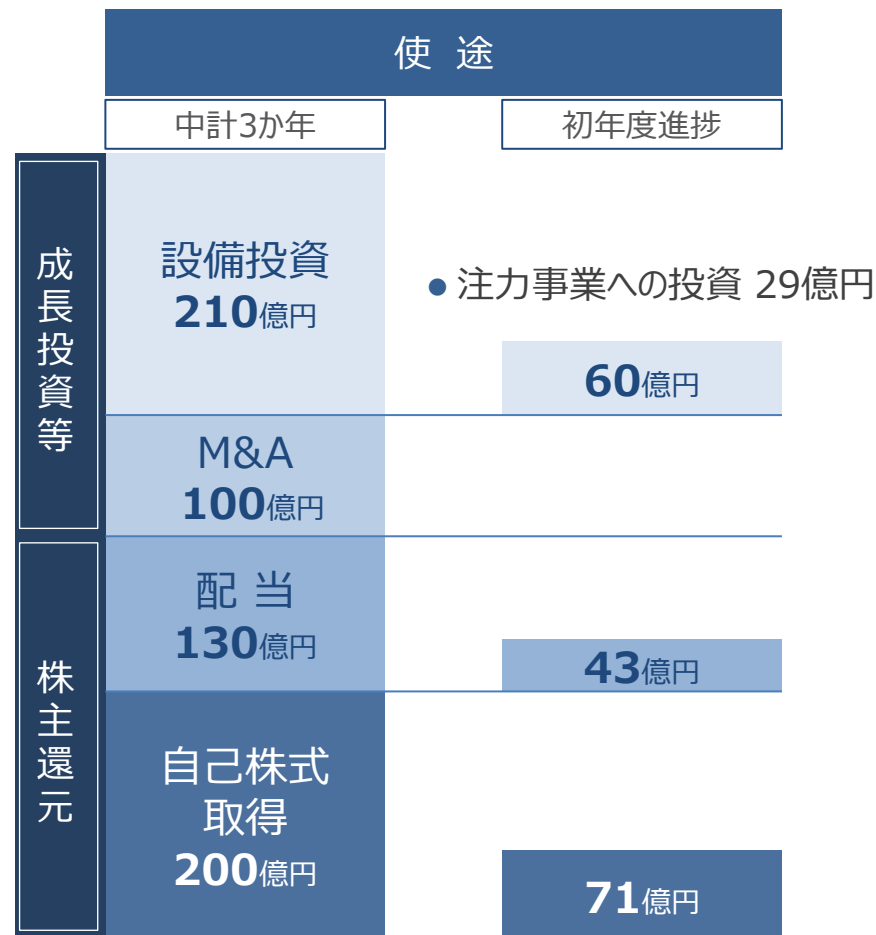
各セグメント	事業区分	主な製品・サービス	注力/基盤	注力領域
化成品	高機能樹脂製品	高機能樹脂加工品（フッ素、スーパーエンブラ）、フッ素樹脂素材、フィルタなど	注力	半導体製造関連
	機能フィルム	半導体工程フィルム（離型フィルム、ダイシングフィルムなど）	注力	半導体製造関連
		太陽電池向け封止材、各種高機能フィルム	注力	
	産業マテリアル	軟質ウレタン、断熱材、建材、不織布などの機能資材	基盤	
繊維	糸	高機能糸（機能性コットン糸NaTech）など	基盤	
	ユニフォーム	ユニフォーム高機能生地・製品（防災・難燃素材ブレバノなど）、暑熱リスク管理システム（スマートフィット）など		
	カジュアル	カジュアル向け高付加価値生地・製品など		
環境メカトロニクス	ライフサイエンス・テクノロジー	攪拌脱泡装置、遺伝子抽出装置・受託解析、ロボットビジョン、自動化装置（ラボ/ファクトリーオートメーション）など	注力	ライフサイエンス関連
	エレクトロニクス	液体成分濃度計など	注力	半導体製造関連
		インフラ検査装置、膜厚計など		
	エンジニアリング	ウェハー等洗浄装置、薬液供給装置など	注力	半導体製造関連
環境関連設備（水処理、ガス処理、バイオマスなど）		基盤		
食品・サービス	食品	フリーズドライ食品	注力	ライフサイエンス関連
	サービス	複合文化施設（倉敷アイビースクエア）、自動車教習所	基盤	
不動産	不動産	不動産賃貸	基盤	

営業キャッシュフロー及び非営業資産の売却等により獲得した資金をもとに、中期3か年計画に沿った成長投資と株主還元を実施



借入金返済ほか 減▲53億円

※営業CFは、非営業資産の売却に伴う法人税等の影響を考慮している。



- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

売上高	1,437億円	前期比 Δ 4.6%、中計初年粗目標比 Δ 0.2%、直近予想比 Δ 0.2%
営業利益	91億円	前期比 Δ 11.0%、中計初年度目標比+14.8%、直近予想比+8.0%
経常利益	110億円	前期比 Δ 6.1%、中計初年度目標比+16.5%、直近予想比+10.7%
当期純利益	128億円	前期比+42.8%、中計初年度目標比+35.5%、直近予想比+12.0%

- 前期比では減収・営業（及び経常）減益も、特別利益に政策保有株式の売却益等を計上し、**当期純利益は過去最高を更新。**
- **各段階利益は中計初年度目標を上回り、順調な滑り出し。**
- **第4四半期に入り、主力の「高機能樹脂製品」などが巻き返し、直近予想比（2/9公表）でも各段階利益は上振れ。**
- 2026年3月期の年間配当は、**前期比127円増配、配当予想比25円増配の1株あたり307円。**
2027年3月期の年間配当（株式分割前ベース※）の**1株あたり配当は331円を予想。4期連続の増配を見込む。**

※当社は、2026年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき、5株の割合で株式分割を行う予定です。2027年3月期の配当予想は分割考慮前の金額になります。

2026年3月期 業績の概要（全社）

(単位：百万円)	25/3期 通期実績		26/3期 通期実績		前期比		中計（初年度） 目標比		直近予想比 (2/9公表)	
		構成比		構成比		増減率		増減率		増減率
売上高	150,660		143,758		△6,901	△4.6%	△242	△0.2%	△242	△0.2%
売上総利益	31,658	21.0%	30,876	21.5%	△782	△2.5%	—	—	—	—
販管費	21,346	14.2%	21,694	15.1%	+347	+1.6%	—	—	—	—
営業利益	10,311	6.8%	9,182	6.4%	△1,129	△11.0%	+1,182	+14.8%	+682	+8.0%
経常利益	11,784	7.8%	11,071	7.7%	△712	△6.1%	+1,571	+16.5%	+1,071	+10.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,014	6.0%	12,876	9.0%	+3,861	+42.8%	+3,376	+35.5%	+1,380	+12.0%
設備投資額	7,156		5,075		△2,080		△2,725		—	
減価償却費	5,157		5,017		△139		△83		—	

売上高は、「化成品事業」及び「繊維事業」の落ち込みにより前期比では減収だが、中計初年度目標比ならびに直近予想比（2/9公表）は同水準。

一方、利益面でも減収により減益となったものの、中計初年度目標比では各事業が堅調に推移し、増額した直近予想をさらに上回った。特に、当期純利益は政策保有株式の売却益もあり過去最高を更新した。

2026年3月期 業績の概要（セグメント別）

		25/3期 通期実績		26/3期 通期実績		前期比		中計（初年度） 目標比	
			利益率		利益率		増減率		増減率
(単位：百万円)									
化成品事業	売上高	66,002		62,654		△3,347	△5.1%	△1,346	△2.1%
	営業利益	5,030	7.6%	4,154	6.6%	△875	△17.4%	+254	+6.5%
繊維事業	売上高	48,532		43,276		△5,255	△10.8%	△224	△0.5%
	営業利益	75	0.2%	△ 897	△ 2.1%	△973	—	△197	—
環境メカトロ ニクス事業	売上高	21,943		22,716		+773	+3.5%	+516	+2.3%
	営業利益	3,341	15.2%	3,867	17.0%	+526	+15.7%	+867	+28.9%
食品・サービス 事業	売上高	10,458		11,145		+686	+6.6%	+645	+6.1%
	営業利益	724	6.9%	885	7.9%	+160	+22.1%	+185	+26.4%
不動産事業	売上高	3,723		3,965		+241	+6.5%	+165	+4.3%
	営業利益	2,243	60.3%	2,299	58.0%	+55	+2.5%	+99	+4.5%

貸借対照表

(単位：百万円)	25/3末	26/3末	増減	備考
流動資産	84,835	82,496	△2,339	売上債権や棚卸資産の減少
（現金及び預金）	(15,192)	(15,533)	(+340)	
固定資産	105,693	119,348	+13,654	
（有形・無形固定資産）	(45,801)	(46,060)	(+259)	
（投資その他の資産）	(59,891)	(73,287)	(+13,395)	投資有価証券の増加 政策保有株式の当期末残高66,575
資産合計	190,529	201,844	+11,315	
流動負債	39,502	36,357	△3,145	短期借入金や仕入債務の減少
固定負債	29,843	31,812	+1,969	繰延税金負債の増加
負債合計	69,346	68,170	△1,175	
（借入金合計）	(10,356)	(6,972)	(△3,384)	
純資産	121,182	133,674	+12,491	その他有価証券評価差額金の増加
（株主資本）	(100,511)	(101,900)	(+1,388)	
負債・純資産合計	190,529	201,844	(+11,315)	
自己資本比率	62.9%	65.5%	+2.6%	
ROE（自己資本純利益率）	7.6%	10.2%	+2.6%	
ROA（総資産営業利益率）	5.4%	4.7%	△0.7%	
ROIC（投下資本利益率）	5.5%	4.6%	△0.9%	

株価上昇の影響

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	25/3期	26/3期	備考
営業キャッシュ・フロー	11,048	14,586	
（減価償却費）	(5,157)	(5,017)	
（運転資本（※）の増減）	(506)	(1,456)	※売上債権+棚卸資産-仕入債務
投資キャッシュ・フロー	△2,989	1,366	
（有形及び無形固定資産の取得による支出）	(△5,585)	(△6,075)	設備投資 5,075百万円（計上額）
（投資有価証券の売却による収入）	(1,971)	(7,387)	政策保有株式の売却
財務キャッシュ・フロー	△9,038	△15,806	
（借入金の純増減額）	(△1,644)	(△3,345)	
（自己株式の取得による支出）	(△5,165)	(△7,124)	
（配当金の支払額）	(△2,141)	(△4,390)	
現金及び現金同等物増加額	△964	+340	
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,158	15,499	

- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

2026/3期 業績の概要

半導体製造関連市場の調整局面を受け、主力の「高機能樹脂製品」が減速し、事業全体で減収減益。なお、「産業マテリアル」は不織布や断熱材の受注増や中国子会社の売却など構造改革により、収益性が改善。

サブセグメントの状況

高機能樹脂製品

第3四半期まで続いたAI用途以外の半導体市場の低迷の影響により、半導体製造装置向けの受注が減少。

機能フィルム

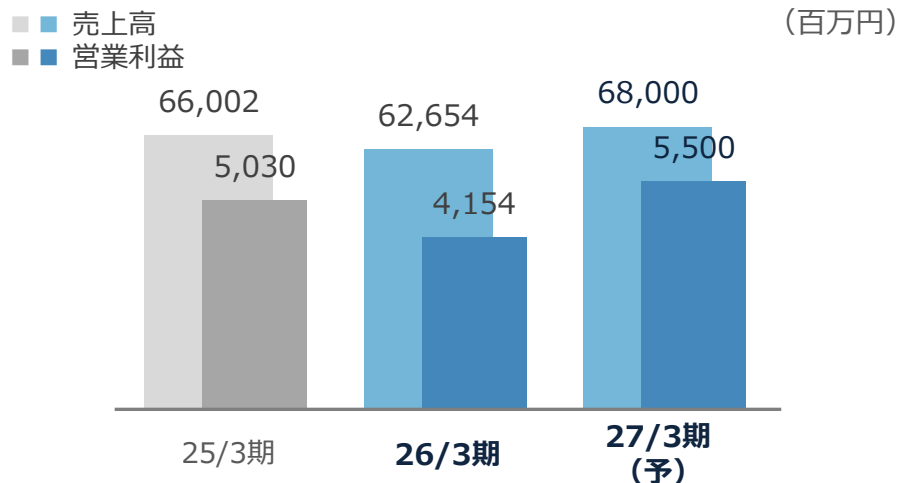
太陽電池向けや半導体製造工程向けの受注が堅調も、自動車向け特殊フィルムの受注が減少。

産業マテリアル

前期に中国の自動車向け軟質ウレタン子会社の全持分を譲渡した影響で減収も、不織布や断熱材が好調。米国関税の影響が懸念された自動車向け軟質ウレタンは国内が健闘。

	25/3期	26/3期	増減
高機能樹脂製品	16,747	15,430	△1,317
機能フィルム	10,317	10,042	△275
産業マテリアル	44,907	43,576	△1,331
消去ほか	△5,970	△6,394	△424
合計	66,002	62,654	△3,347

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し (2027/3期 業績予想)

売上高

680億円

営業利益

55億円

- 市況回復により、「高機能樹脂製品」は大幅な増収・増益。中計目標を大きく上回る見通し。
- 「機能フィルム」は半導体製造工程向けが伸長。太陽電池向けも順調に収益を拡大。
- 「産業マテリアル」は断熱材が堅調推移も、不織布が前期好調の反動減を見込む。自動車向け軟質ウレタンは保守的に立案。

2026/3期 業績の概要

「糸」は原料改質技術を活用した高機能コットン糸「NaTech(ネイテック)」などの差別化原糸が堅調も、生産トラブルによりブラジル子会社が苦戦。「ユニフォーム」はユニフォームアパレル向けが好調。「カジュアル」が大口顧客からの受注減により国内外ともに不振。事業全体で減収、安城工場の閉鎖関連費用（異常操業費用）もあり赤字化。

サブセグメントの状況

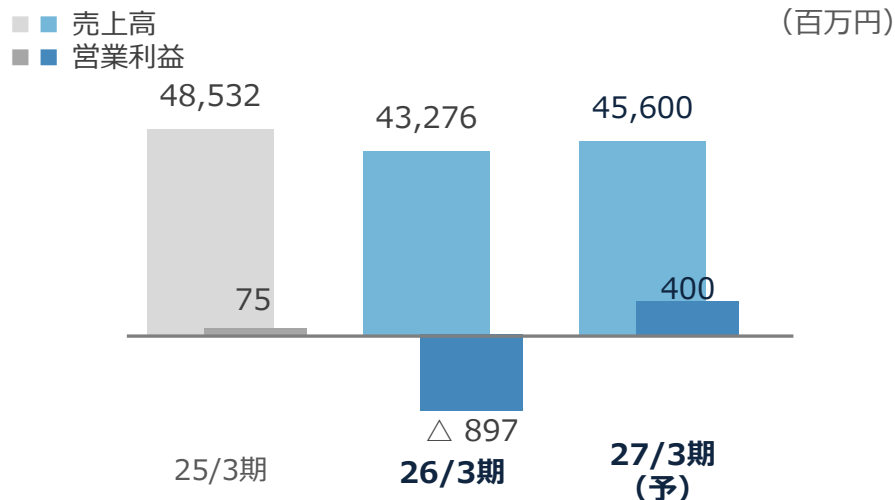
糸 ブラジル子会社のニット糸販売が低調も、「NaTech(ネイテック)」などの差別化原糸やタイ子会社のデニム糸の受注が増加。

ユニフォーム ユニフォームアパレル向け受注が好調。

カジュアル 大口顧客からの生地受注が減少。

	25/3期	26/3期	増減
糸	18,154	18,389	+234
ユニフォーム	11,047	11,399	+351
カジュアル	24,361	19,313	△5,047
消去ほか	△5,031	△5,825	△794
合計	48,532	43,276	△5,255

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し (2027/3期 業績予想)

売上高 456億円 **営業利益 4億円**

- 「糸」は、ブラジル子会社が回復。「NaTech(ネイテック)」も堅調。
- 「ユニフォーム」は防災・難燃素材の受注拡大を計画。
- 「カジュアル」は大口顧客向けが回復。組織改編による販売力の強化と、不採算ビジネスの縮小等により、採算改善を図る。
- 前期に発生した安城工場の閉鎖関連費用（異常操業費用）がなくなり、事業全体で黒字化を見込む。

2026/3期 業績の概要

米国の関税政策などの影響で「ライフサイエンス・テクノロジー」が減速も、半導体製造関連市場に向けた液体成分濃度計やウェハー・フィルター洗浄装置などの商材が「エレクトロニクス」「エンジニアリング」の業績を押し上げ、セグメント全体の営業利益は過去最高益。

サブセグメントの状況

ライフサイエンス・テクノロジー

子会社のFA設備などが堅調、攪拌脱泡装置が米国の関税政策の影響などを受けて低調。

エレクトロニクス

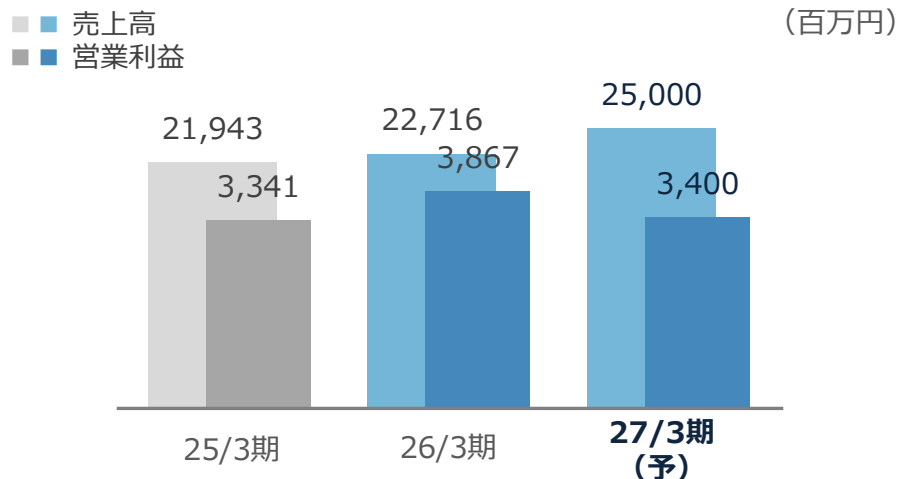
半導体製造装置向け液体成分濃度計が堅調、基板検査装置や鉄道業界向けインフラ検査システムなども順調

エンジニアリング

排ガス処理設備などが堅調、子会社のウェハー洗浄装置やフィルター洗浄装置も好調。

	25/3期	26/3期	増減
ライフサイエンス・テクノロジー	6,485	5,824	△661
エレクトロニクス	7,757	7,780	+22
エンジニアリング	9,589	11,225	+1,635
消去ほか	△1,890	△2,113	△223
合計	21,943	22,716	+773

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し (2027/3期 業績予想)

売上高

250億円

営業利益

34億円

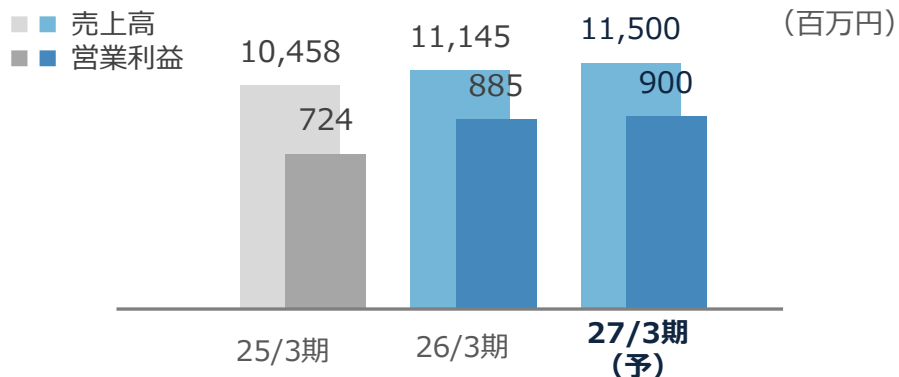
- 「ライフサイエンス・テクノロジー」は、攪拌脱泡装置の回復やロボットビジョンの拡販を見込む。
- 「エレクトロニクス」は、基板検査装置や膜厚計が受注減。液体成分濃度計の受注は堅調も、高採算品の減少を見込む。
- 「エンジニアリング」は、排ガス処理設備等が堅調で増収も、子会社でのウェハー洗浄装置の高採算案件の受注減少を見込む。

2026/3期 業績の概要（食品・サービス事業）

「食品」は、即席麺具材の拡販が順調。

「サービス」のホテル関連は旺盛な国内観光需要やインバウンド需要も取り込み、宿泊やレストランが順調で、宴会の売上も回復傾向。

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2027/3期 業績予想）

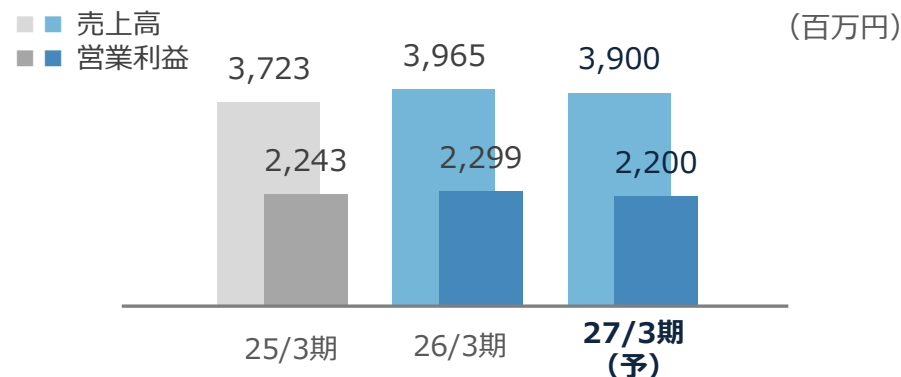
売上高 115億円 **営業利益 9億円**

- 「食品」は、引き続き即席麺が順調に推移、スープも既存顧客向けの拡販や新規顧客開拓が進む。差別化商品の開発と輸出を含めた新市場開拓の基盤づくりに注力。
- 「サービス」のホテル関連は引き続き国内需要やインバウンドが堅調で、客室稼働率や客室単価は高水準を維持する計画。宴会需要は回復傾向。

2026/3期 業績の概要（不動産事業）

賃貸物件の新規開店により増収増益。

売上高・営業利益 推移



今後の業績見通し（2027/3期 業績予想）

売上高 39億円 **営業利益 22億円**

引き続き、堅調に推移する見込み。

- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

主力の「高機能樹脂製品」が牽引し、大幅な増収・増益を計画。
 各段階利益は2期ぶりに最高益を更新。
 「Accelerate'27」最終年度の業績目標達成に向け、「成長フェーズ」へシフト。

(単位：百万円)	26/3期 通期実績		27/3期 通期予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	143,758		154,000		+10,242	+7.1%
営業利益	9,182	6.4%	11,200	7.3%	+2,018	+22.0%
経常利益	11,071	7.7%	12,500	8.1%	+1,429	+12.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	12,876	9.0%	13,000	8.4%	+124	+1.0%
設備投資額	5,075		7,600		+2,525	
減価償却費	5,017		5,300		+283	

2027年3月期 通期業績予想：セグメント別

	(単位：百万円)	26/3期 通期実績		27/3 通期予想		前期比	
			利益率		利益率		増減率
化成品事業	売上高	62,654		68,000		+5,346	+8.5%
	営業利益	4,154	6.6%	5,500	8.1%	+1,346	+32.4%
繊維事業	売上高	43,276		45,600		+2,324	+5.4%
	営業利益	△897	△2.1%	400	0.9%	+1,297	—
環境メカトロニクス事業	売上高	22,716		25,000		+2,284	+10.1%
	営業利益	3,867	17.0%	3,400	13.6%	△467	△12.1%
食品・サービス事業	売上高	11,145		11,500		+355	+3.2%
	営業利益	885	7.9%	900	7.8%	+15	+1.7%
不動産事業	売上高	3,965		3,900		△65	△1.6%
	営業利益	2,299	58.0%	2,200	56.4%	△99	△4.3%

化成品事業は、「高機能樹脂製品」が大幅な増収、増益。

繊維事業は、前期発生 of 工場閉鎖関連費用（異常操業費用）がなくなったことや構造改革の効果などで、黒字化。

環境メカトロニクス事業は、「ライフサイエンス・テクノロジー」が回復も、高採算案件減により減益。

食品・サービス事業および不動産事業は、引き続き、堅調に推移。

株主還元方針（「Accelerate'27」期間の目標値）

- 配当政策：株主資本配当率（DOE）4%
※「株主資本+その他の包括利益累計額」の期首および期末残高の平均値を分母として算定
- 自己株式の取得：200億円

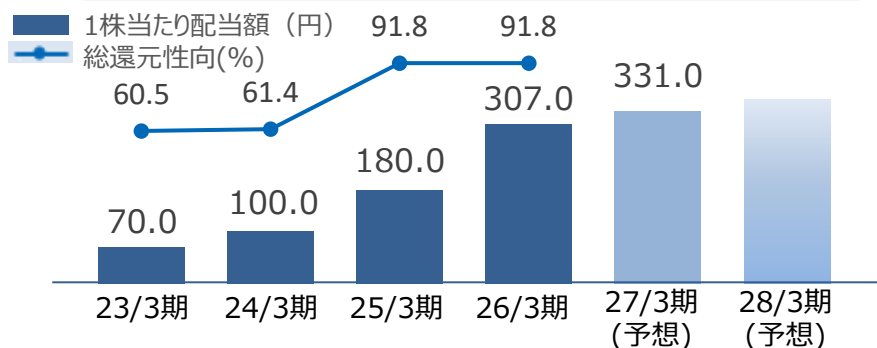
2026年3月期 配当額

年間配当 **307円/株**（前期比 **+127円/株**）
の増配を実施（配当予想比+25円の増配）
－ 中間配当 141円/株、期末配当予想 166円/株

2027年3月期 配当予想

分割前ベースで年間配当 **331円/株**を予定
－ 中間配当(分割前) 166円/株、期末配当(分割後) 33円/株
※2026年10月1日に株式分割を予定(1株→5株に分割)

1株当たり配当額の推移（株式分割考慮前）

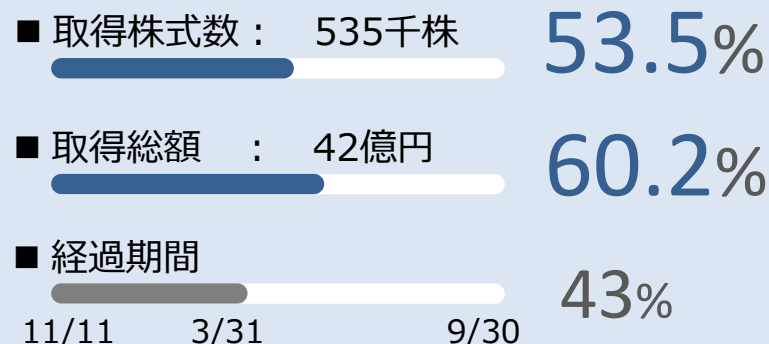


自己株式取得・消却

2025年11月11日付け決議概要

- 取得株式総数：上限 1,000千株
- 取得株式総額：上限 70億円
- 取得期間：2025年11月12日～2026年9月30日

2026年3月31日までの取得状況<約定ベース>



- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

(基準年度)

(最終年度)

【全社目標】

(単位：億円)

	25/3期 実績 ①	26/3期		27/3期		28/3期 計画 ②	増減 ② - ①
		当初計画	実績	当初計画	今回公表		
売上高	1,506	1,440	1,437	1,520	1,540	1,650	+143
営業利益	103	80	91	112	112	130	+26
経常利益	117	95	110	120	125	130	+12
親会社株主に帰属する 当期純利益	90	95	128	100	130	110	+19
売上高営業利益率	6.8%	5.6%	6.4%	7.4%	7.3%	7.9%	+1.1pt
ROE (自己資本純利益率)	7.6%	8.0%	10.2%	9.0%	10.0%	10.0%	+2.4pt
ROA (総資産営業利益率)	5.4%	4.3%	4.7%	6.2%	5.6%	7.5%	+2.1pt
ROIC (投下資本利益率)	5.5%	4.4%	4.6%	6.4%	5.6%	7.9%	+2.4pt

【事業別目標】

		実績 ①	当初計画	実績	当初計画	今回公表	計画 ②	② - ①	CAGR
化成事業	売上高	660	640	626	680	680	740	+79	+3.9%
	営業利益	50	39	41	55	55	60	+9	+6.1%
繊維事業	売上高	485	435	432	450	456	490	+4	+0.3%
	営業利益	0	△7	△8	6	4	12	+11	+152.0%
環境メカトロニクス事業	売上高	219	222	227	240	250	270	+50	+7.2%
	営業利益	33	30	38	34	34	40	+6	+6.2%
食品・サービス事業	売上高	104	105	111	112	115	112	+7	+2.3%
	営業利益	7	7	8	7	9	8	+0	+3.4%
不動産事業	売上高	37	38	39	38	39	38	+0	+0.7%
	営業利益	22	22	22	22	22	22	△0	△0.6%

	主な重点施策	評価	主な活動実績
化成品事業	半導体製造関連やエネルギー関連市場へ向けた高機能樹脂製品・機能フィルム事業への経営資源集中と事業拡大加速	○	<ul style="list-style-type: none"> 市況が調整局面に入り業績面では伸び悩みも、2025年7月に熊本イノベーションセンターの操業を開始、10月にフッ素成型素材の生産を開始するなど、「高機能樹脂製品」の生産・開発体制を増強し、将来的な市場の回復・拡大に向けた体制を整備。 エネルギー関連市場向け太陽電池封止材用途は量産安定化により収益性が改善。半導体製造関連では後工程で使用されるフィルムの拡販が進展。
	自動車や住宅関連市場向け産業マテリアル分野における新規ビジネスの展開と市場への深耕	○	<ul style="list-style-type: none"> 「軟質ウレタン」は自動車向けが米国関税影響を受けるも、原材料費低減や生産性改善により利益面では堅調に推移。 「住宅用建材」は、国内住宅需要が低迷する中、関税の影響を受けた米国向け景観材は低調も、住宅省エネ基準への適合義務化を背景に断熱ボードが好調。非住宅向けの新用途開発や米国以外の海外市場開拓に注力。
繊維事業	最終ユーザーのニーズに基づく独自技術の開発推進と独自技術商品の販売拡大	△	<ul style="list-style-type: none"> 原料改質技術を活用した高機能コットン糸「NaTech(ネイテック)」は堅調推移。夏期需要の更なる取り込みを目指し、吸水速乾機能の開発に注力。 防災・難燃素材や暑熱リスク管理システム「Smartfit(スマートフィット)」は減速。 大手繊維素材メーカー等と共同で「繊維 to 繊維」プロジェクトを提案し、NEDOの「バイオものづくり革新推進事業」に採択。同プロジェクトを進めるコンソーシアムCFT2 (Consortium for Fiber to Fiber) の設立に参画。
	海外製造拠点を軸としたグローバルサプライチェーンの構築	○	<ul style="list-style-type: none"> 2025年7月末に安城工場閉鎖。ASEAN子会社への生産移管が進捗。インドネシア子会社が工場をジャカルタ首都圏から中部ジャワに移転。
環境メカトロクス事業	半導体関連事業、ライフサイエンス・テクノロジー事業の成長加速	△	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造関連の液体成分濃度計やウェハー洗浄装置は好調。事業拡大に向け、外注先との連携等を強化。 「ライフサイエンス・テクノロジー」では、攪拌脱泡装置や遺伝子抽出装置が米国関税影響等もあり減速。ロボットビジョンは顧客要求の高度化で開発・製造期間が長期化し、停滞。
	社会課題の解決に資する環境やインフラ関連ビジネスなどの市場開拓と収益力強化	○	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道向け軌道材料（レール・枕木等）検査システムは受注拡大。新幹線の他、JR在来線、私鉄へも展開。 新エネルギー（水素、アンモニア）対応の工業炉向け脱硝装置の開発および最終製品化へ。

半導体製造関連

<2025年度>

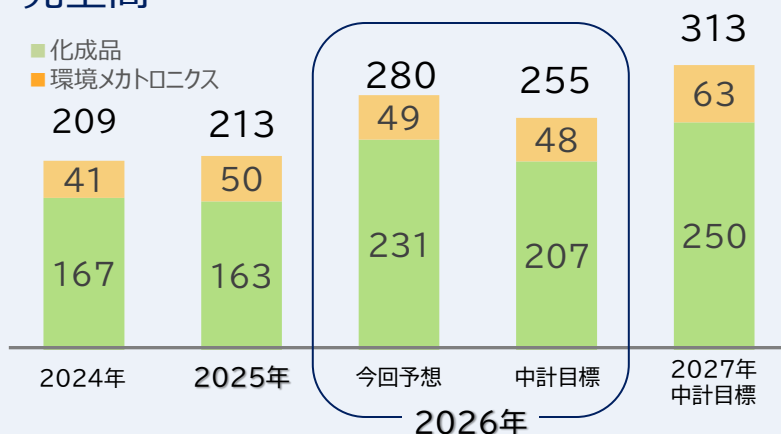
「高機能樹脂製品」は、AI用途以外の半導体市況の低迷の影響により減収となったものの、半導体工程フィルムや環境メカトロニクス事業のウェハー洗浄装置が伸長し微増収。

<2026年度>

2025年度第4四半期以降の半導体市況の回復により「高機能樹脂製品」が大きく伸長。中計目標を大幅に上回る見通し。

売上高

(単位：億円)



ライフサイエンス関連

<2025年度>

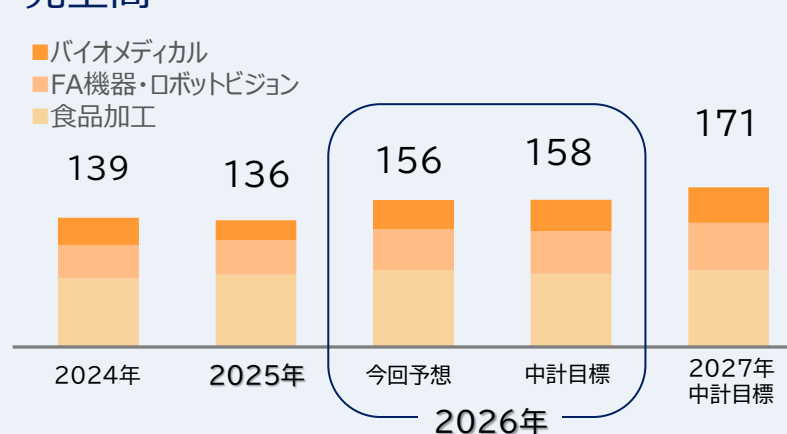
FA機器や食品加工が堅調に推移したものの、攪拌脱泡装置および遺伝子抽出装置が米国の関税政策等の影響などが減速。ロボットビジョンも伸び悩み、減収。

<2026年度>

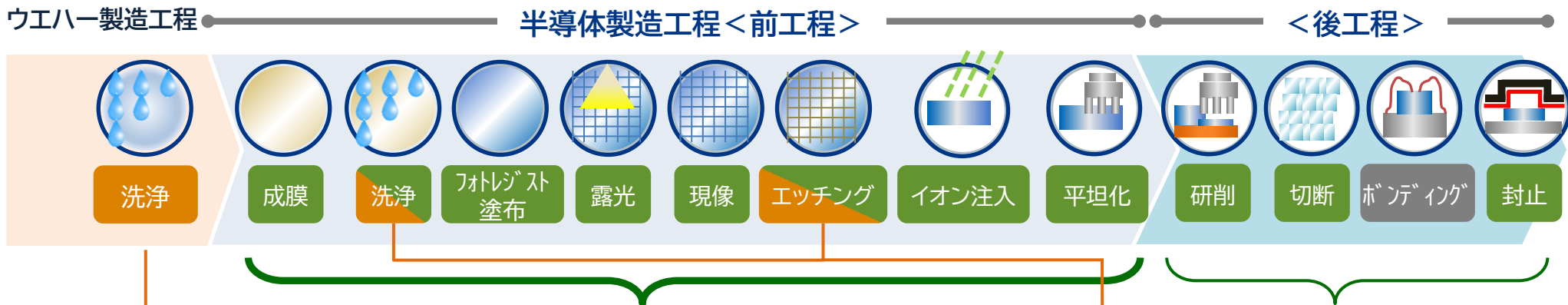
攪拌脱泡装置やロボットビジョンの回復を見込むも、中計目標は未達。食品加工は堅調に推移。

売上高

(単位：億円)



高機能樹脂製品事業：市場拡大が続くウェハー/半導体製造工程向けに幅広い製品を提供



環境メカトロニクス事業

ウエハー洗浄装置 薬液供給装置

化成品事業

高機能樹脂製品
(前工程の各装置用部品に使用)

PTFEやPFAなど、様々な樹脂を多種多様な技術で加工することで、半導体製造装置の搭載部品、またポンプ・バルブなどの機器構成部品を生産。切削、成形、溶接、溶着加工に加えて、表面処理、洗浄などの二次加工にも対応。

環境メカトロニクス事業

薬液濃度計

化成品事業

機能フィルム

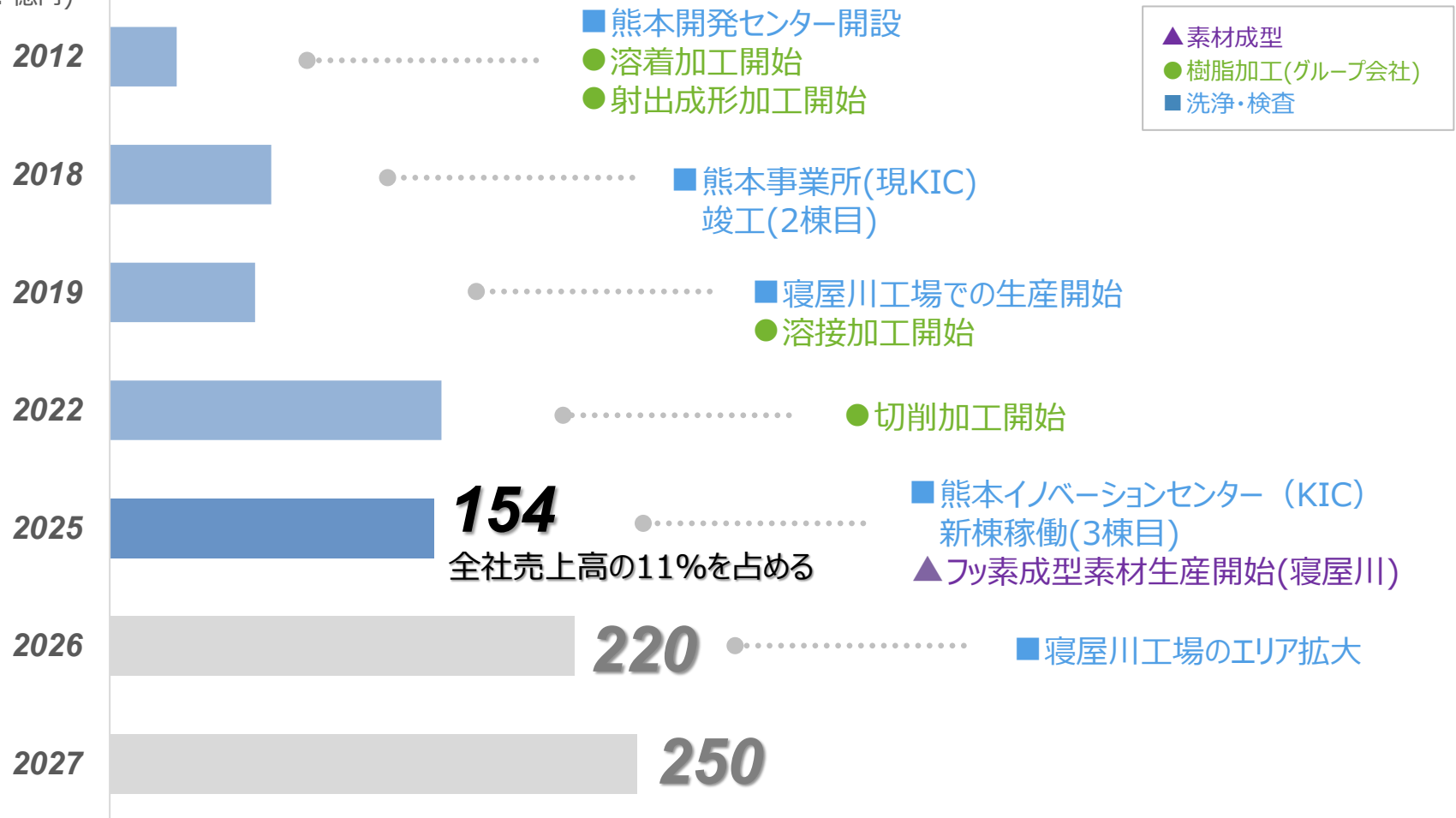
高機能樹脂製品事業のサプライチェーンと当社グループの強み



事業の拡大に伴い、生産・開発体制を強化

機能樹脂製品 売上高推移

(単位：億円)

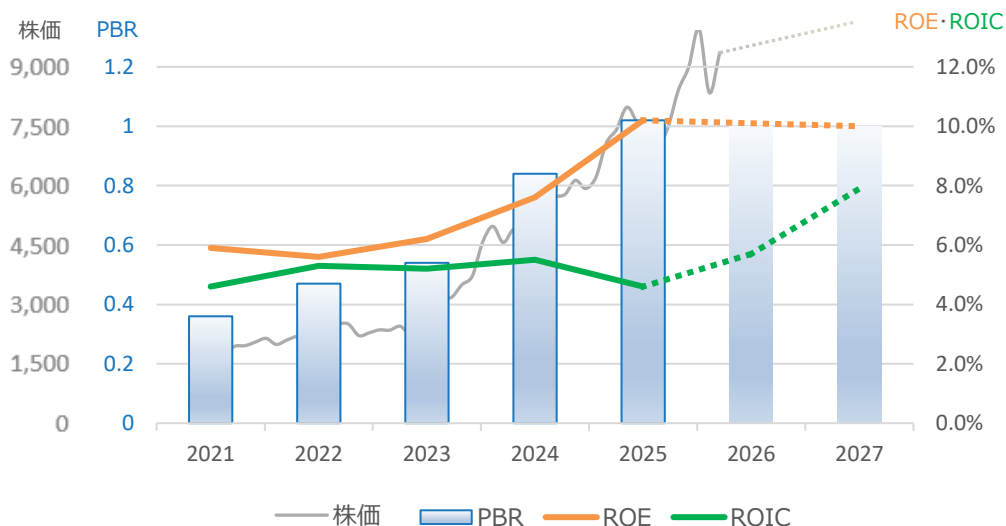


- 01 | 中期経営計画「Accelerate '27」の概要
- 02 | 2026年3月期 業績の概要
- 03 | セグメント別の業績及び今後の見通し
- 04 | 2027年3月期 通期業績予想
- 05 | 「Accelerate '27」の進捗
- 06 | 資本収益性の向上に向けた取り組み

現状認識

2026年5月に過去最高値となる11,580円を記録した。その後も概ね10,000円台を維持しており、市場からはPBR1倍超を前提とした評価が定着した年度であったと認識。

【過去5年間の株価、PBR、ROE、ROICの推移】



【2026年3月末】

株価	8,410円	➤➤➤➤	10,000円水準
PBR	1.02倍	➤➤➤➤	1倍以上
ROE	10.2%	➤➤➤➤	10%以上
ROIC	4.6%	➤➤➤➤	8%以上
PER	10.76倍		

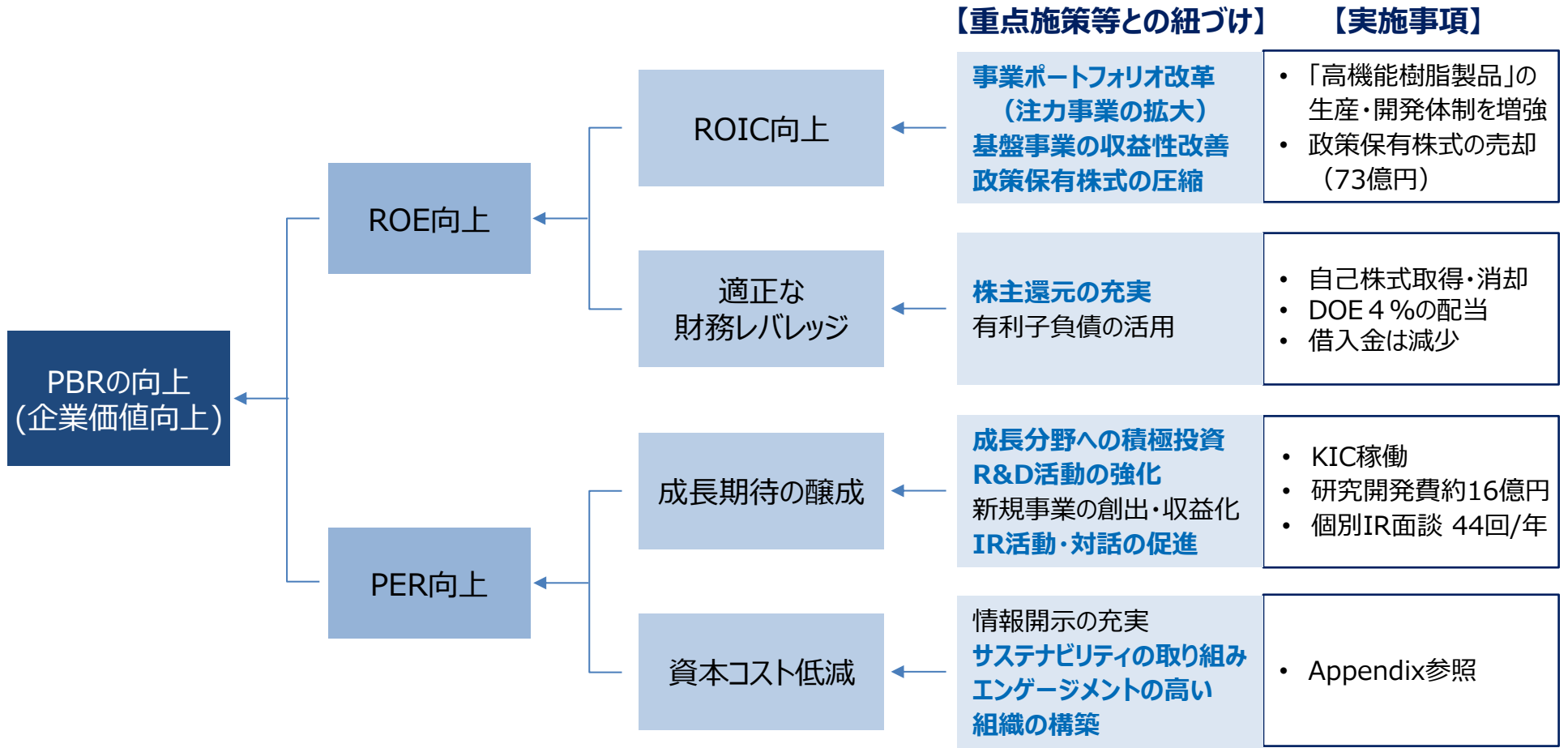
【現状】

【目標】

今後の方針

株主資本コストはリスクフリーレートの上昇に伴い、CAPM等の手法を基に8%を中心としたレンジまで上昇したと把握しているものの、株主の期待するリターンは更に高いものと認識しており、「Accelerate'27」の目標である**ROE10%以上の維持**や**IR活動の充実**などを通して、まずは安定的に**PBR1倍以上**の水準を目指す方針

引き続き、事業ポートフォリオ改革や政策保有株式の圧縮、株主還元の充実などを通して、企業価値（PBR）の向上を目指す



※青文字は特に影響（重要度）の大きいもの



KURABO



将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

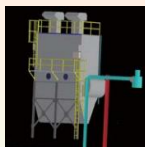
また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

Appendix

R&D 6つのコア技術

- 化成品事業
- 繊維事業
- 環境メカトロニクス事業

■ 高速3Dビジョンセンサー
Kurasense



■ 三次元写真計測
Kuraves



■ 鉄道軌道・路面検査・
トンネル検査システム



■ 基板外観検査装置
BBMASTER



■ 液体成分濃度計
■ 膜厚計



■ 徳島バイオマス発電所



■ 機能性コットン糸
NaTech

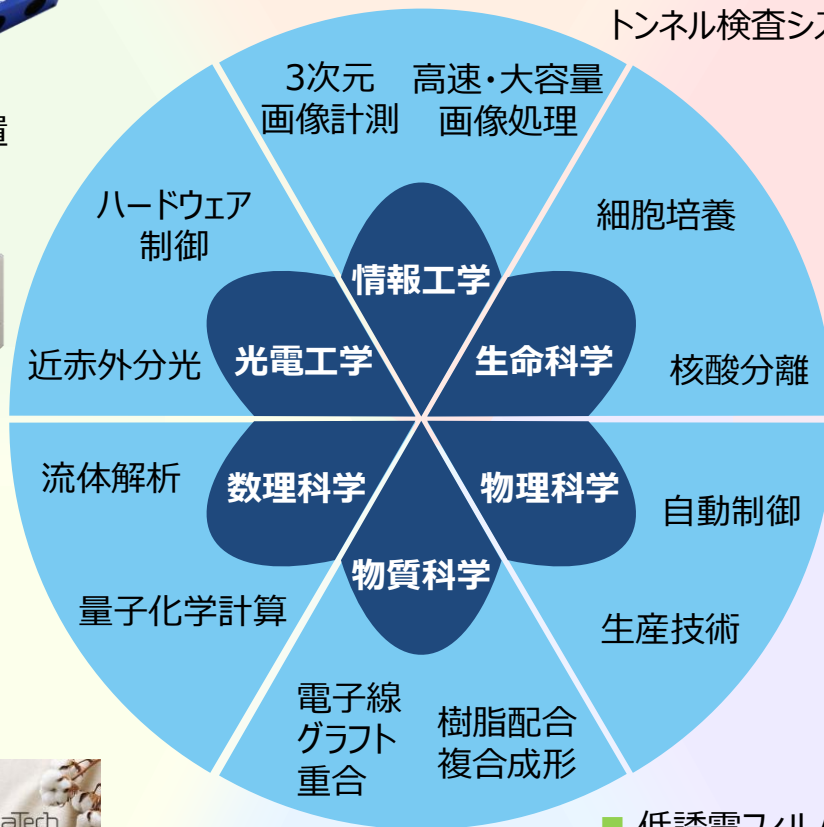


■ 金属イオン除去フィルター
KURANGRAFT

■ 低誘電フィルム
EXPEEK、Oidys



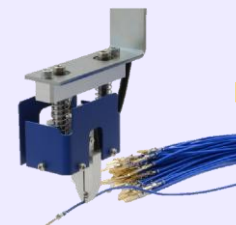
■ 熱可塑性炭素
繊維複合材



■ 核酸抽出装置
QuickGene、GENE PREP STAR



■ 攪拌脱泡装置
MAZERUSTAR




■ ロボット周辺機器
Kurabotte

【基本方針】

持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
 - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
 - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
 - ④ 信頼される企業づくりの推進

サステナビリティの取り組み (マテリアリティの特定と主な施策、取り組み・KPI等)

【マテリアリティ】

【主な施策】 ※青文字は売上高の伸びや収益性改善に直接結びつく施策

【主な取り組み・KPI等】

安心・安全で快適な社会の実現

- デジタル社会の進展に貢献する半導体市場関連製品、サービスの開発と提供
- 労働人口の減少対策のためのFA・ロボット事業展開と生産拠点のスマートファクトリー化、QR体制の構築
- 革新的な技術や高度な品質を支える研究開発と知財戦略の推進
- 安心・安全に貢献する商品の販売拡大

- ・熊本イノベーションセンター新稼働 (半導体製造装置向け高機能樹脂加工品の増強)
- ・高度化する半導体後工程に向けた機能性フィルムの拡大
- ・FA・ロボット事業の売上拡大、生産拠点のスマートファクトリー化
- ・特許出願割合
- ・インフラ検査 (新幹線の軌道材料モニタリングシステム等)
- ・暑熱作業リスク管理システム「Smart fit」販売拡大

地球環境への配慮と循環型社会への貢献

- 環境配慮型商品の拡大
- 循環型ビジネスモデルの構築
- カーボンニュートラルへの取り組み推進
- 環境負荷を低減する技術開発
- 事業継続計画 (BCP) の強化

- ・機能性コットン「NaTech (ネイテック)」の販売拡大
- ・家畜排せつ物処理装置「FUNTO (フント)」の販売拡大
- ・アップサイクルシステム「L∞PLUS (ループラス)」の販売拡大
- ・再資源化率
- ・CO2排出量の削減

多様な人材の活躍推進と人権尊重

- 人権教育とサプライチェーン管理の徹底
- 多様な人材の活躍推進 (DE&I、エンパワメント)
- 柔軟な働き方推進、エンゲージメント向上
- 安全衛生管理の徹底、健康経営の推進
- 自動化、DX推進による生産性向上

- ・管理職に占める女性労働者の割合
- ・女性総合職の配属課比率
- ・男性労働者の育児休業取得率
- ・エンゲージメント・レーティング (調査会社算出)
- ・生産拠点のスマートファクトリー化

持続的な成長に向けたガバナンス・CSRの強化

- コンプライアンス教育の徹底、内部統制の強化
- ステークホルダーとの対話の充実
- 非財務情報の開示の充実
- 資本収益性や株価を意識した経営
- 事業ポートフォリオ戦略、経営資源配分
- 事業リスク管理の強化

- ・コンプライアンス活動監査
- ・IR説明会の開催、機関投資家との対話促進
- ・中期経営計画における目標値の達成
- ・成長領域へ経営資源の集中
- ・リスクマップの作成

➡ 各取り組み・KPIの進捗状況については、統合報告書2025をご参照ください。

クラボウグループの長期環境目標

クラボウグループは、政府目標である2030年度にCO₂排出量を46%削減（2013年度比）、2050年度にカーボンニュートラルの達成に向けて、CO₂排出量削減のための推進体制を強化し、具体的な施策を進めてまいります。



取組み

脱炭素社会・資源循環型社会に向けた取組み

●カーボンニュートラルロードマップに基づくCO₂排出量の削減

- ✓ 太陽光パネルの設置（クラボウ徳島工場・三重工場、タイクラボウなど10製造拠点） 合計3,400t-CO₂削減
- ✓ ボイラーのガス化、冷凍機更新（クラボウ裾野工場・群馬工場・鴨方工場、日本ジフィー食品など） 合計1,400t-CO₂削減
- ✓ 再生可能エネルギー由来の電力導入（クラボウ本社ビル・東京支社・徳島工場など） 合計900t-CO₂削減

●資源の有効活用と再資源化の推進

- ✓ 廃棄物ゼロエミッションの推進（再資源化率） 2026年度目標 97%（前年度実績 96.8%）

●サプライチェーンのCO₂排出量（Scope3）把握

- ✓ カテゴリー 1～8 2024年度実績 合計644,500t-CO₂/年

社員一人ひとりが組織に主体的に貢献する「エンゲージメントの高い組織の構築」に 取り組む

	指標	25/3期	26/3期	目標
「Accelerate'27」重点施策④ エンゲージメントの高い組織の構築	エンゲージメントスコア（偏差値）	43.6	43.6	55.0（28/3期末）
	エンゲージメント・レーティング	CC	B	BBB（28/3期末）
① DE & I 推進による組織活性化 アンコンシャス・バイアスの一層の理解浸透とハラスメントのない職場づくり、女性・シニア層の活躍推進、障がい者雇用の推進、LGBTQ+の理解促進、外国籍社員の採用	管理職に占める女性割合	4.1%	4.5%	5%以上（28/3期末）
	新卒総合職に占める女性割合	37.5%	28.6%	各年度30%以上
	経験者総合職採用に占める女性の割合	27.6%	27.8%	定めず
	総合職女性の配属課比率	47.1%	53.0%	50%以上（28/3期末）
	障がい者雇用率	2.63%	2.78%	法定雇用率以上
	外国籍総合職採用数	5名	2名	定めず
② 社員の活躍推進 1. ワーク・イン・ライフの推進：時間外労働の削減、有休の取得促進、工場休日の増加、男性育休取得の促進 2. 人事制度の充実：人事考課によるメリハリのある処遇、管理職賞与制度における連結業績連動化と人事考課加算額の増額、相対評価から絶対評価への変更、評価フィードバックの徹底、新評価制度の導入	月平均時間外労働	8.7 h	10.6 h	10 h 未満（28/3期）
	有給休暇取得日数	13.1日	14.7日	15日以上（28/3期）
	男性の育休取得率	73.9%	78.6%	80%以上
	男性の育休14日以上取得者率	65.2%	78.6%	80%以上
③ 人材の確保・定着・育成 採用チャネルの増加や採用サイトの刷新による採用力強化、エンゲージメント向上施策や従業員持株会補助増加による定着の向上、学習内容の定着と研修プログラムの継続的見直し・高度化	総合職採用に占める経験者の割合	64.4%	46.2%	定めず
	業務上災害発生件数	6件	9件	0件
	健康経営有料法人認定取得（偏差値）	認証(57.1)	認証(58.0)	偏差値60以上
	一人当たり社内研修費用	3.5万円	4.3万円	4万円以上

R&Dの中核となる技術研究所では、次世代の主力事業として推進している4つのプロジェクトを、事業部との連携のもとで本格化していく

コア技術

数理学

- 計算化学
- 流体解析

物理学

- メカ制御
- 生産技術

光電工学

- 分光計測
- 回路設計

情報工学

- 画像処理
- AI認識

物質科学

- 表面改質
- コンバーティング

生命科学

- 核酸分離
- 細胞培養

プロジェクト

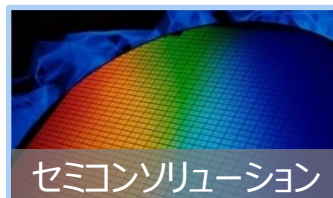
研究開発費

製品



8億円

高速3DビジョンセンサーKurasense
路面検査・トンネル検査システム
ロボット周辺機器Kurabotte



13億円

低誘電フィルムEXPEEK、Oidys
液体成分濃度計



5億円

核酸抽出装置QuickGene、
GENE PREP STAR



20億円

機能性コットンNaTech
複合素材

その他

14億円

計60億円（3年間累計）